あすなろ通信

茅ケ崎高校校長だより
No.20　平成 30 年 10 月 4 日

どんな自分になるか、それを決めるのは自分でしかない

東京オリンピック・パラリンピックが 2 年後に近づき、大会を支えるボランティアの募集が始まりました。オリンピック・パラリンピックの開催地が東京に決定したのは、今から 5 年前のことでした。

平成 25 年(2013 年)9 月に、ブエノスアイリスで行われた IOC(国際オリンピック委員会)の総会で、開催候補地に立候補している国が、それぞれに自国の良さをアピールするためのプレゼンテーションを行いました。

日本は、パラリンピック陸上競技の佐藤真海選手が、19 歳の時に骨肉腫で足を失った絶望の淵から立ち上がり、2 大会連続でパラリンピックに出場したことや、2011 年に起こった東日本大震災の津波により故郷の街が失われたことなどを伝えました。そして、スポーツには、「新たな夢と笑顔を育む力」、「希望をもたらす力」があることや、「人々を結びつける力」があることを訴えました。

また、滝川クリステルさんからは、日本ならではのお迎えの精神「おもてなし」や、東京で何かを失くしても、たとえそれが現金であっても、ほぼ確実に戻ってくる安心・安全な国であることなどをアピールしました。

すべての人の想いが一つになったプレゼンテーションの効果もあり、見事に東京が 2020 年のオリンピック・パラリンピックの開催地に決定しました。

その翌日、あるスポーツメーカーのサイトが話題になりました。そこには、次のようなメッセージが載せられていました。

--- まだなにも決まってはいない ---

レールになんて乗るな。ここからはなんだってありだ。着せられた制服も、貼られたレッテルもだれかの勝手な期待も、邪魔だったら捨てればいい。
なにかになりたい？だったら、きみがなればいいだけ。
遠慮なんかしてる場合じゃない。動け。ぶつかれ。不可能をのりこえるほどきみはもっとうまく、もっと強くなれるはず。
挑みつづけるかぎり負けはない。
明日。7 日後。7 年後。どんなきみになるかは今日のきみが決める。
きみはどうなりたい？

東京招致の祝福ムード一色だっただけに、このメッセージに強いインパクトを受けた人が多かった。招致は決まったものの、誰が選手として出場するのかはもちろん決まっていない。すべてがここから始まったのだ。

みなが一斉にスタートラインに立ち、2020 を目指しはじめた。不可能と思っているうちは、乗り越えられるはずがない。壁があったら壊せばいい。自分自身を信じて、挑み続けることが大切なのだ。どんな自分になるか、それを決めるのは自分でしかないのだから。

茅高ニュース　～茅高よ、世の荒波を分けて進め～

部活動の方針を策定しました

神奈川県教育員会では、平成 30 年 4 月に「部活動の在り方に関する方針」を策定しました。本校でもこれを受けて、合理的でかつ効率的・効果的な活動を推進するとともに、適切な休養日等を設定することといたしました。ご理解の上、ご協力をよろしくお願いいたします。

◎週当たり平日１日以上、週休日１日以上の休養日を設けます

［具体的な運用］

①統一的、定期的な休養日を取ることが難しい場合には、別の日に振り替えることや半日を単位とすることもあります。

②年間 52 週と考え、平日及び週休日各 52 日以上に相当する休養日を設定します。その際、ひと月のうち、平日及び週休日にそれぞれ少なくとも 1 日(週休日は半日×2 日も可)以上の休養日を設けるようにします。

［52 日の考え方］

①平日は、放課後の部活動が行われない日を 1 日とします。

②週休日(祭日等を含む)は、全日の休養日を 1 日とし、半日の休養日を 0.5 日とします。

③長期休業中は、生徒が終日活動できることから、週休日と同様の扱いにします。

［全日制］

昇降口に龍が降臨

今回は、柱に絵を描くという話をいただき、思い切りやらせてもらいました。せっかく「柱」に描くのだから、「それを活かせるモノを…」と考えて

いて、思いついたのが「長いモノ」でした。長いモノと言っても、いろいろあります。ヘビやリュウグウノツカイ、何かの群でも表すことができます。しかし、魚は生臭いな…。ドーンとしたものがいい、迫力のあるモノ…。 →「龍」にしよう、となった訳です。理由はかなり単純です。

今回の昇降口の絵は、ある一点から見ると龍がつながります。ただ、描いた本人が小さめの人間なので、もし気まぐれに見る人がいたならば、頑張ってつなげて見てあげてください。未だ完成していないので、これから顔や鱗(うろこ)を描き込む予定です。今年度中には終わらせたいと思っています。(美術部２年：齋木凛々花・杉崎由比)

昇降口のペンキ塗りには、PTA 環境委員会の方に、また部室棟トイレのペンキ塗りには、野球部の保護者の方にご協力をいただきました。お忙しい中、本当にありがとうございました。

インターンシップでさまざまな体験

今年度も、夏休みを利用して鎌倉湘南地区および神奈川県のインターンシップが行われました。1 年生 1 名、2 年生 9 名、3 年生 12 名の合計 22 名が貴重な体験をしてきました。ここでは、参加者の感想を載せたいと思います。

香川保育園(1 年：高橋涼香)

子どもたちが遊んでいると、必ずケンカが起きてしまいます。私はどうやって止めていいのか、まったくわかりませんでした。でも、先生たちはしっかりその子を引き止めて、目を見て、理由を聞き、何がどうダメだったのかを一緒に考えさせるように話をしていて、すごいと思いました。

香川富士見丘幼稚園(2 年：杉山　萌)

お店などの仕事とは違い、相手は子どもなので、思ってもみなかったことが起こったり、一人ひとりに合わせて対応を考えたりと、臨機応変に動くことが大切だと思いました。先生は、一人ひとり全員の顔と名前を覚えていて、一人ひとりに違う接し方をしていました。当たり前のことかもしれないけれど、とても大切なことだと思いました。

浜須賀保育園(2 年：菊川涼介)

3 日間の実習で学んだことはたくさんあるが、その中で学んだことをいくつか紹介しようと思う。一つ目は、子どもを子どもとしてではなく、一人の人間として見ること。子どもから学ぶことはたくさんある。二つ目は、子どもの成長スピードの早さだ。3 日間で、5 歳、4 歳、3 歳と触れ合ったが、考え方に差が出ていて、1 年間でこんなに成長するものなのかと驚かされました。

茅ヶ崎警察署(3 年：大枝万希子)

強く感じたのは、どの組織も「生身の人間によって構成されている」ということ。お世話になったどの方も、人間味に溢れていて、とても身近に思えた。組織が人間で構成されているということは、当たり前ではあるが、これまでの認識がとてもぼんやりとしたものだったとわかった。そこから「自分」の将来のことへの自覚を持つことができた。

神奈川県病院薬剤師会(3 年：栗原未有)

参加して思ったことは、「影で支えることの大切さ」でした。処方箋の通り薬を用意するだけという簡単な作業と思われがちな仕事ですが、本当にその患者さんに合った薬か、別の薬との飲み合わせは悪くないかなどを判断する仕事です。体調変化をコミュニケーションの中で聞き出したりするなど、見えない所で人命を左右させる重要な仕事だと感じました。一人でも多くの患者さんを救えるような薬剤師さんになりたいと思いました。

横浜銀行茅ヶ崎支店(3 年：熊澤清香)

私が学んだのは、主に現行の役割、接遇マナー、融資体験です。この接遇マナーを学んだ時にわかったのは、いかに細かい所にまで配慮できるかが大切だということです。細かい所まで配慮できる人でなければ、社会では通用しないのだと思いました。私には、この能力はまだまだ足りていないので、これから伸ばしていこうと思いました。

［定時制］

体育祭でボウリングを楽しみました

9 月 11 日(火)、寒川セントラルボウルで、体育祭を行いました。ボウリング競技は、定時制で初の試みです。1 人 2 ゲームを行い、合計のスコアを競い合いました。

各レーン、ストライクやスペアを取るたびに歓声が上がり、生徒だけでなく、先生たちも競技に参加して、みんなで楽しく汗を流すことができました。

閉会式では、上位入賞者への表彰やブービー賞（下から 2 番目)、校長先生の抽選による「あすなろ賞」が発表され、受賞した生徒の笑顔とともに、和気藹々とした雰囲気で体育祭が閉幕しました。

行事にご協力いただいた皆さま、特にドリンクや副賞をご準備いただいた PTA の皆さま、本当にありがとうございました。(担当：桑田)